

第3学年体育科（保健領域）学習指導案

1. 単元名 毎日の生活と健康

2. 単元の目標

（1）体育科としての目標

- 健康な生活に関心をもち、意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
- 健康な生活を送るために課題解決を目指して実践的に考えて判断して表すことができるようにする。
- 健康な生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項について理解できるようにする。

（2）汎用的スキル

- 手洗いについて明らかにしたいこと、知りたいこと、改善したいことなど課題を発見し、その解決や目標達成を成し遂げようとする。（問題解決力）

（3）態度・価値

- これまでの手洗いと正しい手洗いはどこが違うのか、何が正しいのかなど、手洗いという身近な生活における行動に興味・関心を持とうとする態度を育む。（好奇心・探究心）

3. 児童の実態

対象学級の児童 31 名に、「生活に関するアンケート」（質問紙8項目）を実施した。質問項目8「外から帰った後や、活動の後に、手洗いをしていますか」について、「いつもしている」（28名）、「時々している」（3名）「あまりしない」「しない」はいずれも（0名）という結果であった。しかし、児童の学校生活における手洗いの様子では、手を水に浸すだけの「したつもりの手洗い」になっている傾向があり、意識と実態にずれがあった。児童は、教科学習において友達の意見をまず受け止めて自分の考えと比較しながら新たな考えを生み出したり、自分の考えを深めたりすることができるようになってきている。

4. 単元について

①教科から見た特性

本単元では、まず、健康に関する主体の要因である食事、運動、休養・睡眠について、児童がセルフモニタリングシートを活用し、自分の生活での成果と課題を客観的に捉えることができるようにする。さらに、身の回りの清潔を保つために必要な「手洗い」に着目する。養護教諭と連携して手洗い実験を行い、これまで「したつもりの手洗い」だったことを児童に実感させる。さらに本単元では、学年や学校全体の手洗いの普及にむけて児童が自ら考えた方法を選び、また、その反応を調査（質問紙調査）して、意識を変えるには簡単ではない現実を知り、さらなる普及に向けて協働して取り組む活動を設定した。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

これまで、児童が日常的に行っていた手洗いでは、まだまだ汚れが落ちていない状況を知り、より正しい手洗いとはどのような方法なのか、また、そのような手洗いを学校全体に広げるためにどうしたらよいかと考える学習活動は児童の問題解決力や好奇心、探究心を育む機会となる。

5. 単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全5時間 本時3／5時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (2時間)	「健康って何だろう！」 ・自分の体と、学校や家庭における毎日の生活のしかたに関心をもち、健康の大切さを認識する。 ・元気アップ大作戦」家庭実践（セルフモニタリングシート）	○問題解決力 ○メタ認知力	○毎日の生活についてセルフモニタリングシートを活用し、自身の健康における課題を見付ける場面の設定 ○児童自身が毎日の生活を振り返り、健康に生活するための方策を考え実践する場の設定
第2次 (2時間)	「身の回りの清潔大作戦」 ・体を清潔に保つために自分のできることを考え、気づくことができる。（手洗い実験） ・手洗いの大切さについて学校全体によりよく発信していく方法について学級で話し合う。	○メタ認知力 ○問題解決力	○手洗い実験から、自身の手洗いの結果を知り、正しい手洗いについて思考する場の設定 ○自分だけではなく、どうしたら正しい手洗いを全体に広げていくか解決したい、よりよくしたいという場の設定
第3次 (1時間)	「身の回りのかんきょうをととのえよう」 ・自分の生活を見直すことを通して、生活環境を整えるために自分のできることに気付き、実践する意欲をもつ。	○伝える力	○身の回りの環境を整えることの重要性を他者に伝えるポスター作成の場

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・身の回りの清潔における正しい手洗いの方法について、自分の生活やユニセフでの取組を比較したりしながら身に付けることができる。
- ・健康な生活を送るために、正しい手洗いの重要性を知り、今後の生活習慣改善への理解を深める。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て◆評価
導入 5分	○セルフモニタリングシートから児童が「手洗い」について日頃の様子を発表する。 ・ハンドソープを付けて手洗います。 ・家に帰ったらすぐにやっているよ。 ・洗ったら、手はさっとふきます。 ・手のひらを洗います。 ・手を洗うと気持ちがよいです。 ・友達と比べるとあまり洗わない時もあるかもしれない。	◇これまでの自身の日常生活での取り組みを他者と比較しながら、自身の課題について明確にすることができる（発言、ワークシート：メタ認知力）
展開 30分	○本時の学習課題を知る。 本当に大丈夫？その「手洗い」？みんなで考えてみよう ○日常的にどんな手洗いをしているか、グループで話し合う。 ・手のひらが特に汚いから中心的に洗っているよ ・いつも決まっている順番がある。 ・時間は10秒くらいかな ・もっと少ない時間のことが多い。 ○手洗い実験をする。（養護教諭とのTT） ・あれ、汚れの部分落ちてない。 ・きれいに落ちたところもある。 ○「手洗い実験」をして、気付いたこと、考えたことをもとに話し合う。 ・思っていたより、汚れは取れていない。 ・どれくらい洗ったら汚れは取れるのだろう。 ・指の間などが撮れていないね。 ○正しい手洗いの方法を知る（養護教諭とのTT） ・なるほど、今までの手洗いは間違っていた。 ・きれいになったつもりだったけどそうではなかった ○10月15日は何の日かについて考える。 ・健康の日 ・保健の日 ○「世界手洗いの日」ユニセフでの取組について知る。 ・そのような日があることは初めて知りました。 ・手洗いをする事で、国中が健康に気を付けて生活することができるのだね。	◇グループごとにホワイトボードに考えを記入させる。（可視化ツールの用意：批判的思考力） ◇グループの友達の発表内容をよく聞き、たくさんの考えを出せるように促す。（ブレインストーミング：他者に対する受容・共感・敬意） ◇児童の考えを書いた短冊を黒板に貼っていく。（可視化ツールの用意：批判的思考力） ◇これまでの自分の手洗いと比較して、正しい手洗いの方法を考えられるようにする。（体験的な活動：好奇心・探求心） ◆どのようにしたら汚れがしっかりと落ちるような正しい手洗いができるか要させる。（グループディスカッション：問題解決力）
整理 10分	○今日の学習で分かったこと、考えたことをワークシートに記入する。 ○本時のまとめとして自分の考えを発表する。 ・これまでしたつもりの手洗いになっていたことが分かった。 ・正しい手洗いをすると気持ちがよいことが分かった ・世界では手洗いを中心に身の回りの清潔を大切に取り組んでいることが分かりました。 ・手洗い時間、石けんの使用、手洗い後の手拭きが重要であることが分かりました。 ○次時の予告を聞く。	◆自らわかったことを記述し、セルフモニタリングシートと比較しながら今後の生活について考えるようにさせる。またその考えを発表させる。 （ワークシート：メタ認知）